

人が育ち、次世代につづく 京都企業を目指す — 育てる力が「起点」に —

“育てる力”が、 地域の未来をつくる。

人材は採用して終わりではありません。育て、定着させてこそ企業の力になります。

京都には多くの若手人材が集まる一方で、流出という課題が続いています。

本セミナーでは、「人材は勝手に育たない」という視点を共有し、人的資本経営を軸に、育成と定着を実現する仕組みづくりを考えます。事例紹介とグループワークを通じて、自社で実践できる施策を描き、“人が活きる組織”が企業の未来をどう変えるかを体感する場です。次世代につづく京都企業への第一歩を、共に踏み出しましょう。

2026. **1/21** (水) 14:00・17:00
<13:30-受付開始> **参加無料**

会場

QUESTION クエスチョン

(問いから価値を生み出す共創空間)

京都市中京区河原町通御池下 下丸屋町390-2

対象

経営者、マネジメント層、金融機関、
中小企業支援機関など

定員

30名程度

令和7年度「近畿経済産業局における地域中小企業人材確保支援等調査・分析」(事業区分A)の一貫として実施します。

【主催】近畿経済産業局 【協力】京都府、コミュニティ・バンク京信

【実施運営】一般財団法人大阪労働協会



④ 最寄り駅からのアクセス

- 京都市営地下鉄東西線「京都市役所前駅」
1番出入口より徒歩約1分
- 京阪電車「三條駅」12番出口より徒歩約5分

④ 京都駅からのアクセス

- 京都市営地下鉄 烏丸線(国際会館方面行き)に乗車後、
「烏丸御池駅」で京都市営地下鉄 東西線
(御陵・六地藏/びわ湖浜大津方面)に乗り換え。
「京都市役所前駅」にて下車、徒歩約1分

QUESTIONには専用の駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。

詳細は裏面へ



第1部 CASE STUDY 事例から学ぶ「人材は育てて定着させるもの」

14:00~14:10 オープニング

14:10~14:50 ケーススタディ

「自律的な人が育つ、そのために会社ができる人的資本投資とは(仮)」

case study 1

経営理念で人財採用！ 日本一綺麗な仲卸の人的資本経営

京都・卸売市場で「年功序列×家族主義×日本一綺麗な職場」を実践。万松青果は、求人応募者が殺到し、若手定着率が抜群に高い理由を持っています。そんな同社の特徴は、売上や成果主義を撤廃し、「喜んでもらえた過報」や情報共有を徹底導入。社員と顧客を大切にする文化が、業績と採用力を両立しました。本講演では、共感採用・理念浸透・内発的動機を引き出す人的資本経営のエッセンスを、採用～定着まで一貫した実践事例として学びます。

万松青果株式会社

代表取締役会長 中路 和宏氏

1963年京都市生まれ。28歳で家業の万松青果株式会社に入社。当時の従業員に「救世主」と迎えられたもののまったく期待に応えられず、実力不足を露呈し大量離職など数々のピンチに遭遇。その後、自らが考える企業のあるべき姿を追求するため、数々の改革を実行、現在に至る。52歳で中小企業診断士の資格を取得。経営者とコンサルタントの二足のわらじで活動中。



case study 2

“働く”を自分事に— 地域と企業をつなぐ新しい働き方

クリーニングと地域循環に根ざし、社員一人ひとりが“働く”を自分事に変える—京都・アグティの挑戦。代表・齊藤氏は従来の「会社に従う」構造を見直し、「好きな時間に来て、好きな働き方をして帰る」ACWA BASEを通じて、多様な人材がサバティカル休暇や評価ではなく「感謝」で互いを認め合う文化へシフト。本講演では、人的資本経営の視点から、地域との多世代共生を促す仕組みと、働く人の自律と幸せを両立する組織づくりを、齊藤氏の豊富な実践事例から紐解きます。アグティ流「働き方改革×地域づくり」のリアルな軌跡を体感し、自社でも明日から始められる要素を発見しましょう。

株式会社アグティ

代表取締役社長 齊藤 徹氏

高校卒業後、叔父が経営する有限会社アロマクリエイトに、アルバイトを経て19歳で入社。会社が株式会社アグティに組織変更された25歳の時に取締役に就任。35歳で事業承継により代表取締役社長に就任後、創業者の信念である「会社は、働く人のために存在する。」を“自分らしく”実現するため、様々な施策を実施している。



14:50~15:15 レクチャー

「これからの京都企業に求められるマネジメント(仮)」

登壇者

同志社大学 商学部教授

同志社大学中小企業マネジメント研究センター長

関 智宏氏



1978年山口県宇部市生まれ。2000年神戸商科大学商経学部中退(飛び級のため)。2006年神戸商科大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(経営学)。阪南大学経営情報学部教授を経て2018年より現職。研究分野は中小企業論、中小企業経営論。主要業績は『現代中小企業の発展プロセス—サプライヤー関係、下請制、企業連携—』ミネルヴァ書房(2011年3月)、『持続可能な経営と中小企業—100年経営・社会的経営・SDGs経営—』(関智宏・同志社大学中小企業マネジメント研究センター編)同友館(2020年4月)、『中小企業研究の新地平—中小企業の理論・経営・政策の有機展開—』(編著)同友館(2022年3月)、『中小企業とアントレプレナーシップ—危機や逆境を乗り越える企業家活動プロセス—』白桃書房(2025年10月)他多数。

15:15~15:30 サマリー

労働供給制約社会における人的資本経営の可能性と人財活用ガイドライン(仮)

第2部 WORKS ワークで描く「育成と定着の仕組み化」

15:40~16:50 ワークショップ

「学生とともに考える2030年 — 自社がこれからも京都で続いていくためのターニングポイントとは —」

このセッションでは、「2030年の自分・自社・そして京都」を描き、学生と共に、未来から逆算して今必要な経営判断を整理します。これからの世代との対話をもとに、人的資本経営の視点から次の一手を考えます。

16:50~17:00 クロージング

お申し込みはこちら

働くなら近畿

検索

<https://hataarakunarakinki.go.jp/news/seminar-kyoto20260121.html>



※お申込みいただいた個人情報は、本イベントの目的及び、人材支援に関するサービスの提供や各種分析等の集計に利用されるものであり、それ以外の目的で使用することはありません。